

多度地区小中一貫校整備事業 第1回開校準備委員会 会議概要

開催日時 令和3年7月17日(土) 13:30~15:30

開催場所 多度まちづくり拠点施設 第1・2教室

出席委員 22名中 19名

1. あいさつ 桑名市長あいさつ
2. 自己紹介 委員紹介・事務局紹介
3. 設置要綱・傍聴要領・名簿(案)
4. 委員長・副委員長の選出
5. 議事

(1) 多度地区小中一貫校開校準備委員会について

① 開校準備委員会の役割(案) および 検討体制(案)について

委員 : 今年度の委員に未就学児の保護者が入っていない。新しい学校を実際に使うであろう未就学児の保護者ニーズはどう入れていくのか。

事務局 : 今年度は入っていただけていないが、4年間で開校準備委員会を進めていく中で、協議の進捗に応じて未就学児の保護者の方々にもご参加いただき、ご意見を伺っていきたいと考えている。

② 令和3年度~令和6年度のスケジュール(案)について

③ 令和3年度検討予定(案)について

委員 : 青葉小学校の開校の際も、現場の意見、地域の思い、子どもたちの思いを聞くことが大事であるということだった。今回も同じで、4回で全てを終わらせるのではなく、議論が必要であれば話し合いの回数を重ねていくという姿勢でお願いしたい。

委員長 : 現在の状況や課題について、多くの方に知ってもらうことも大事である。開校準備委員会だけが進んでいってしまわないように、情報の周知もしっかりとお願いしたい。

事務局 : 会の進捗状況等については、かわら版を使って、地域や保護者の方に配布するつもりである。しっかりと周知を図っていききたい。

委員 : 青葉小学校の開校の際は準備期間も1年間しかなく、十分な準備ができなかった。特にスクールバスは1台となったことで、バスを待つ子どもたちが出てしまった。また、多度南小の校舎を使用したことで、子どもたちは新しい学校という気持ちにならなかった。地域の方にとっても、運動会にスクールバスを走らせても来ていただけない。こういった思いをしっかりと分かってもらって進めていかないといけない。

(2) 多度地区小中一貫校の校種について

委員 : 資料を見ると、義務教育学校の学級規模は、明らかに小規模校が多い。小規模校が義務教育学校としてやり易いというのはイメージできるが、中・大規模校の場合、義務教育学校のメリット・デメリットが分かりにくい。他校の様子や、中・大規模校における義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校それぞれの良さや問題点等を調べてもらい、提示してもらいたい。

委員 : 設置状況を見ると、義務教育学校が増えてきていることは分かるが、施設一体型小学校・中学校も含めて、どんな規模の学校が含まれているのか教えて欲しい。

事務局 : 資料は文科省の学校基本調査から作成しており、昨年度、全国に108校の一体型の義務教育学

校があり、その規模についても資料を示している。小中一貫型小学校・中学校の規模については、国のデータとして出ていないため、把握していない。平成28年度以降に小中一貫型小学校・中学校から義務教育学校に移行した学校もある。他市の事例等も調べて提示し、次回以降意見いただきたいと考えている。

委員：校種については、子どもの数で考えていくだけでなく、どのような教育を進めるために、どのような学校の枠組みにしていくかというような、様々な検討の方法があると思う。中央教育審議会の今年1月の答申でも、義務教育9年間でどうしていくのかを重視している。文科省の指針は変わることもあるが、どういう学校を作っていくべきかを検討するための資料提供をしてもらって、皆で検討するべきと思う。

委員：入学式や卒業式といった行事はどうなるのか。保護者の気持ちとしては、小学校を卒業し中学校へ入学という区切りで、子供の成長を感じる面もあり、大切なものである。義務教育学校になるのであれば、そのような説明も、もっと保護者達に周知してほしい。

委員：昨年からの流れでは、市は義務教育学校を見据えて話を進めている気がする。だが、資料では小中一貫型小学校・中学校が全国に106校もある。やはり、それぞれのメリット・デメリットをしっかりと比べて議論しないといけない。

委員：どちらの校種でも小学生と中学生と一緒に生活し、活動することの良さはすごく感じられる。小学校の統合だけでも大変なことであるので、義務教育学校にしなかった事例もある。9年間一貫した教育を進めようという気持ちは、施設一体型ならば、小学校の先生も中学校の先生も同じであり、目標も同じである。小中2人の校長も連携して運営している。これは施設一体型小学校・中学校のメリットだと思う。義務教育学校にもメリットはあると思うので、検討していければ良いと思う。

委員：1点目、埋蔵文化財の試掘状況はどうか。2点目、地域の人達から、「学校はどこにできるのか」「いつできるのか」という質問をよく受ける。委員会の様子も含めて、もっと分かり易く工夫して、地域の人達に周知してほしい。3点目、文科省は、「一人一台タブレットの時代であり、机を大きくしなければならない。」と言っている。教室の大きさも対応してくれるのか。

事務局：文化財の試掘調査は、7月で終わる予定であり、いくつかの出土品が出ている。出土品は、保管し、工事を進めていけるようにする。情報の周知については、かわら版の内容を、より分かりやすく工夫していきたい。また、懇話会等を通じて保護者の方々にもお知らせしていきたい。また、机の大きさや教室の広さも考慮して施設設計にあたっていく。

委員：プールは計画に盛り込むのか。学校の先生の意見は聞いているが、保護者はプールについてどのように考えているのか。今後、プールに関して保護者の聞き取り等を盛り込んでほしい。

事務局：保護者の声について伺う機会を設けられるよう検討していく。

6. その他

委員：制服については、桑名郡市の中学校と足並みを揃えて新たな制服を中学校で検討していく予定である。他にも、ジャージや体操服や通学カバンについて、新たなものをまずは中学校で検討していきたい。また、小山台の中学生が徒歩になるのであれば、歩道橋の設置を検討して欲しいという地域の声がある。

7. 閉会